

ドラミング定点調査によるノグチゲラ *Sapheopipo noguhii* の繁殖個体群密度推定

○石田 健(東京大学)・金森匡彦・大津佳代(日本森林技術協会)

沖縄島北部の山原地域にわずかに残った5000haたらずの壮齢照葉樹林に生息する固有種ノグチゲラの、繁殖個体数とその年変動を把握するために、1970年代から、巣穴の分布や密度とプレイバック等を援用した個体記録とによって、間接的な手法による生息個体数の推定が試みられてきた。また、環境省の保護増殖事業により、2000年度から個体群の一部に脚環標識を用いた個体識別を行って繁殖行動を中心とした経年観察も実施されている。後者は直接的であるが、せまい地域の一部の個体に観察が限定されている。そこで、両者の間をつなぎ、本種の全繁殖個体数を推定するための手法開発をめざして、2003～2005年度の九州森林管理局による「やんばる地域希少野生動物種保護管理対策調査」の一環として、複数の定点から同時にドラミング地点を記録するセンサスによって、1平方キロ余りの区域に生息している繁殖(可能)個体数を推定する試みを行った。

調査地は、生息域北東の国有林で米軍訓練区域に入っていて森林の状態の良い伊部岳地域、環境省の標識個体調査の実施されている区域を含む西銘岳地域、ノグチゲラの分布の南東端に位置する国有林の新川地域の3カ所である。なるべく全域のドラミングを確認できるように地図と現地を確認した、樹上と地上の5(新川)、8～9(伊部岳)、5～9地点(西銘岳)に定点を置いた。各年とも4月初旬の夜明け前の6時から2～3時間半の間、各地点で1～2人の調査員が、確認したノグチゲラのドラミングの位置、時間、回数、音質を同時に記録し、調査終了直後に全員の観察結果を照合して、ドラミングの行われた地点の位置と数を確認し、ドラミングをしていた個体数を推定した。

伊部岳では、2003年の調査時は雨模様で寒く、2005年は北風が強く、ドラミングは断続的だったが、2003年の最初から好適な観察定点配置を確保でき、結果として3年間のいずれにおいても安定した推定12個体のドラミングを確認した。西銘岳では、2003年は晴れていたものの風が強く、また観察地点数が不十分で、9個体のドラミングしか確認できなかった。2004年は観察地点の配置を改め、気象条件にも恵まれた結果、推定で20個体を確認した。2005年は、さらに観察地点を加え、やや広い範囲の確認が可能になり、26個体のドラミングを確認できた。2004年と同じ範囲内での確認個体数は、同様であったと考えられた。新川では2004年と2005年のみ調査した。2004年に推定10個体、2005年に推定7個体のドラミングを記録した。2005年には、2004年に記録された南の地区で1個体も記録されなかった。ダムに近い北側では同じ個体数だった。

この方法で1平方キロていどの範囲のドラミング個体数を比較的少人数で、正確に把握できるものと考えられた。調査地域を生息域全体に広げ、植生等の環境条件と対比してノグチゲラチゲの全個繁殖個体数の推定を毎年モニターできる可能性が示唆された。